

# シリコンバレーの光と影

ジェットロ サンフランシスコ事務所次長 永松 康宏

アップル、グーグル、フェイスブックなどのテック系企業、またAI（人口知能）、IoT（モノのインターネット）、フィンテック（本誌 p.68の注2を参照）といった革新技术など、今、世界を席巻しているテクノロジーの大半がシリコンバレーで生まれている。「ヒト・チエ・カネ」というこの地でのビジネスの三要素が世界中から集まる。空前の好景気に沸くシリコンバレーだが、それゆえに当地の日系企業はビジネス展開に関して課題も多くなってきている。

## シリコンバレーのエコシステム

「エコシステム」という言葉をご存じだろうか？（本誌2016年8月号特集を参照）シリコンバレー（以下、SV）から世界をリードする技術・製品が次々と生まれてくる理由、それは、「ヒト・チエ・カネ」の三要素が有機的に連携して自律的にビジネスを発展させていく起業支援システム、すなわちエコシステムが構築されているからだといわれる。それぞれの要素を見てみよう。

**ヒト**：スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、同大学院サンフランシスコ校（UCSF）などの有名大学が常に優秀な人材をSVに送り出している。中でもアップル、グーグル、イン

テル、オラクルなどITグローバル企業の存在は、世界中の優秀なエンジニアを引き寄せる。

**チエ**：上述の優秀な人材が、絶えず新しいアイデア・技術をSVにもたらす。そうした人材が交流を深め共同研究を続ける中で、さらに彼らの持つアイデア・技術がブラッシュアップされていく。

**カネ**：彼らのアイデア・技術を具現化するためのカネも集まってくる。2016年SV向けベンチャーキャピタル（VC）投資額は、約249億ドル（約2兆7,400億円）で、全米総投資額の42.5%。まさに、全米のVC投資資金の半分がSVに集中しているのだ。

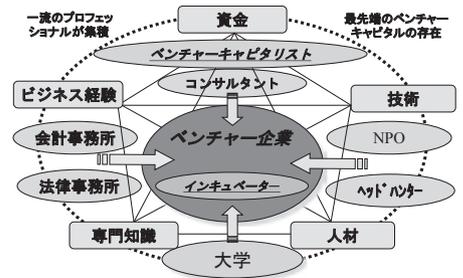
アイデア・技術を持った起業家がエコシステムを活用することによって、そのアイデアを具現化し世界に発信し成功をつかむことができる場所、それがSVである。

## 増大する雇用コスト

世界中からヒト、カネが集まってくれば、当然ビジネスコストは高くなる。

17年第1四半期のサンフランシスコ中心部の平均年間オフィス賃料は77.29ドル/sf（1平方フィート当たり）。12年同期の賃料は45.46ドル/sfであり、5年間で1.7倍と急騰している。それでも空室率は6～7%と低い。また、

図 起業家を生み続けるシリコンバレーのエコシステム



資料：各種資料を基に作成

同地域の居住用アパート月額家賃中央値も3,370ドル（1LDK、17年5月）とニューヨークを抜いて全米第1位だ。

人件費も高騰の一途をたどっている。サンフランシスコの1人当たり年間個人所得が約8万ドルである。最低賃金も18年7月から15ドル/時間に引き上げられる予定だ。スタンフォード大学大学院の新卒エンジニアの平均年収が12万ドル以上といわれていることから、当地雇用市場の高騰ぶりがお分かりいただけるだろう。

ジェットロ・サンフランシスコ事務所が、北加（北カリフォルニア）日本商工会議所と2年に1度実施している「ベイエリア日系企業実態調査」においても、16年度調査で回答した当地日系企業の8割以上が、「雇用コスト」を当地におけるビジネス上の課題として挙げている。賃金高に加え、労働者に配慮した州法への対応や、現地企業に対抗するため福利厚生の実装を図らざるを得ない状況などが、日系企業のコスト負担を増加させているようだ。

空前のテックブーム、好景気に沸くSVだが、ビジネスを行う環境は必ずしも易しいものではない。当地への進出は、情報収集・分析・ビジネスモデル作りを事前にしっかりと行うことが重要である。

